故郷（ふるさと）野付の自然３５

マガモの親子

野付半島の灯台の近くに、雨水が溜まって出来た池があります。通称：淡水池と呼んでいますが、ここは様々な水鳥が暮らしています。今の時期は、野鳥たちも子育ての時期ですが、マガモの親子に出会いました。まだ、生れて１週間もたっていない小さな子ガモが一所懸命離れずにお母さんガモを追いかけているのはとても可愛いですね。本州では、カルガモ親子が話題になりますが、北海道ではカルガモではなくマガモです。他にもこの淡水池では、カイツブリ、オオバン、クイナなどの水鳥が子育てをしています。

カゲロウ大発生

野付半島の淡水池では、カゲロウの仲間が大発生しています。トンボの様に透明な羽でチョウの様にひらひらと飛びますが、今の時期は夕刻には大きな大群となって水辺を飛んでいるので気がついた人もいると思います。カゲロウの仲間は日本では１４０種以上がいるので、どのカゲロウかは分かりませんが、カゲロウの仲間は幼虫時代はずっと水の中で過ごし、やっと羽化（成虫）してもその命は一週間ほどで尽きてしまうようです。その為に、成虫は食事をする必要がないので、消化器官すらないものもいるようです。何だか儚い虫ですね。あの夕刻に群れるカゲロウの大群は、長い間の幼虫時代を経て羽化した成虫たちが次の子孫を残すために、懸命に群れている姿です。大きな蚊のようで人間にも害を与えそうに思いますが、実際は数が多いだけで人間にとっては無害です。むしろ、水質の浄化にも役立っている虫なので、少し温かな目で見てあげましょう。